



山梨分会での新加入者歓迎会

こがひが再建物語 小平東村山 青年部 組織拡大・強化

分会活動経験交流集会 (一面掲載)の全体会議で報告された支部経験を紹介します。小平東村山支部が青年部再建、西多摩支部は組織拡大について報告しました。(見出しは編集部)

小平東村山

あきらめず青年部再建

山内勝行支部後継者対策部長



東村山市立野火止小学校で開催したこどもまつり

【小平東村山・電工・山内勝行さんの話】2018年6月、危機的状況に陥りました。具体的には青年部長の組合脱退、書記長の活動不参加。この2つのことが同時に発生し、青年部活動がままならなくなりました。当時、活動に参加していたのは川島さんのみで、川島さんも子どもが産まれたばかり。話し合いの結果、一時的に毎月定例で行なっていた部会の開催なども見送りました。主任書記とも、こ



山内さん

のまま年度終わりで青年部員が集まらないようであれば「青年部休眠の選択をしよう」という段階まで話しました。どうせ潰れてしまうのなら、最後まであがいてみよう。2018年11月に「青年部交流会」という題目で飲み会を開催することにしました。青年部交流会というタイトルにしたのは、秋の拡大行動もとれない状況でしたので、新歓というタイトルはおこがましいという事で、交流会としました。

6〜10月まで青年部会は未開催のまま進み、11月の交流会の前に部会を久しぶりに開催。川島さんと担当書記の2人では会議にならないという

のま年度終わりで青年部員が集まらないようであれば「青年部休眠の選択をしよう」という段階まで話しました。どうせ潰れてしまうのなら、最後まであがいてみよう。2018年11月に「青年部交流会」という題目で飲み会を開催することにしました。青年部交流会というタイトルにしたのは、秋の拡大行動もとれない状況でしたので、新歓というタイトルはおこがましいという事で、交流会としました。

初参加の仲間 今後は役員に

ここで、支部常任をしている元青年部長の三輪さんと私に協力依頼がきました。4人で部会という名目で作戦会議を行ないました。

宣伝方法は各役員に個別でチラシを郵送するだけでしたが、これで初めて電話での問い合わせが来ました。「チラシを見ただけですけど、交流会に参加できますか。チラシに女の子の写真載せた効果かと思いましたが、妻子持ちの初参加者なので純粋に興味を持っていただけだと思います。

こどもまつりの成功で

住宅デーは大賑わい

毎年東村山市内で開催しているこどもまつりで青年部として木工教室に取り組みました。人数が足りていないので、後継者世代の組合員にご協力いただき、多くの子どもにも木と触れあう楽しさを伝えられたと思います。小山さんは大工さんで初めての交流会の際に「木工教室をやりたい」と言っていたので、それが実現できてよかったんです。今年の10月には、小平市民祭りで

ちびっこ広場という市の推薦でしか入れないブースに工作教室として参加できるように話が進んでいます。こどもまつりは東村山市立野火止小学校という場所で開催されたのですが、この小学校は例年住宅デーのチラシを受け取ってこない学校でした。しかし今年校長先生が、こどもまつりでの「東京土建」を覚えていただけており、チラシ宣伝に協力してくれたと

参加予定となりましたが、まだ安心は出来ません。こどもまつりで当日バックレはよくある話。今回もそのような事になるのではないかと内心ハラハラしていました。しかし、初めに電話をしてきてくれた小山さん、少し遅れて世界一周の國崎さんとその仲間が集まり、当日キャンセルは奇跡の0人でした。交流会以降のイベントは全く考えていませんでしたが、鉄は熱いうちに打てと、忘年会、新年会と連続でイベントを打ちました。小山さん國崎さんの2人は12月ごろから部会にも参加し、現在、小山書記長、國崎副部長として青年部活動に奮闘しています。

野火止分会から報告がありました。青年部としてもこのような成果が出ることは運動の確信に繋がりますので、非常にうれしく思います。おかげで野火止分会も小学生の来場が多くあり、例年以上に賑わいました。今回、小平東村山支部の「再建」という話をしましたが、まだ安心できる状況とは考えていません。去年の今頃は青年部を潰そうとしていたほどなので、それでも新しい活動家・役員が入ったのは「あきらめない心」と「運」だと思っています。

顔見える組織づくり

山口亮祐支部組織部長
関戸睦山梨分会書記長

西多摩

【西多摩・左官・山口亮祐さんの話】昨年より女性分会長になったあきる野三分会は、春の拡大目標を達成しても夏以降の組織拡大・強化にむけて月間最終盤も訪問行動に取り組んでいます。これまでも、女性らしい視線で仲間の奥さんと対話を広げ、仕事だけでなく、家庭やお子さんのことなども話題に広げることで組合を身近なものにしようとしています。また、普段からお世話にな



山口さん

あきる野三は女性が大活躍

ついているセンターの近所の方を招待して、分会BQ交流会を行ないました。周りの方からすれば「東京土建?」ってところもあるの。当日は分会の組合員とご近所の方とワイワイガヤガヤと交流が出来ました。地域のみなさんの理解や協力があることでその地元の建設組合ですからも事業所での拡大が進んでい



関戸さん

相談ふえた 山梨分会

【西多摩・電工・関戸睦さんの話】昨年は春の拡大に合わせ、BOXティッシュ500個を独自に作成。組合員・対象者に配布。また、春・秋の

拡大に合わせ、本部の補助金で独自ポスターを作製。山梨県東部地域24カ所の郵便局にポスター掲示とパンフレットの配布を行ないました。また都留駅前合同庁舎への現場ビラ配布を行ないました。昨年度は目標19人に対し25人の拡大で、実増が14人、実増率11%で、4年ぶりに130人台を回復し、今年に入って150人台と9年ぶりに回復しました。

雇用の確保、社会保険の適用、労災事故の相談、不払い、建設業の許可等々があり、それに伴い組合員が増えてきました。今まで見えてこなかった山梨県の建設労働者の悩み等が「組合」に相談すればという雰囲気は何となく少しずつ出てきています。この流れを大きくしていきます。多くの新組合員が20代、30代。この若い力を出し切って、そして「何でも相談に乗ってくれる組合」を目指し、私たち組合員もテーマを決めて勉強しながら組合の組織強化に取り組みしていきます。